

専門科目履修モデル3 「文学コースで近現代文学を研究する」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本文芸史ⅠA・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	文学概論A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	日本文芸史ⅡA・B	4							
選択必修科目	ゼミ 特講		ゼミナールA・B	4	ゼミナールA・B	4			8単位	8単位	合計 38 単位 以上
		(5)近代A・B	4	(4)近世A・B	4	(12)詩歌A・B	4		24単位	20単位	
				(6)現代A・B	4	(13)児童文芸A・B	4			以上36 単位以下	
		(9)表現A・B	4								
選択科目		ゼミナール入門	2		日本文芸批評史A・B	4			8単位		
					メディアと社会	2					
コメント	1年次にクラス分けが行われる「大学での国語力」は、大学生として学んでいくために必須の内容を身につけます。また「日本文芸学概論A・B」と「日本語学概論A・B」は1年次から履修できる必修科目で、それらの三つは3年次までに履修しないと4年次に進級できない基礎的な科目です。2年次以降のコース選択に生かすためにも、ぜひ1年次から履修しましょう。以上の必修科目を履修したうえで、選択必修科目の特講は8単位分まで履修できます。興味のある「(7)近代A・B」と別の特講を自由に組み合わせられて履修してみましょう。		2年次からは選択必修科目のゼミナールがはじまります。1年次の秋に受けたゼミ選抜によって所属ゼミが決まり、その所属ゼミによって所属コースが決定されます。文学コースに所属すると、各コース共通の「日本文芸史ⅠA・B」以外に「文学概論A・B」と「日本文芸史ⅡA・B」が2年次から履修できる必修科目となります。履修しないと卒業できない科目なので、余裕をもって2年次から履修しましょう。特講ではゼミナールでの研究に生かせるよう、近代と隣接する時代の科目や内容として関連の深い科目を選ぶことができます。		順調に履修できていれば3年次にはゼミナールでの学習も2年目となり、卒業論文で研究したいテーマも次第にはっきりしてきます。ただ準備が整わないまま論文に取りかかると思われぬ苦勞を強いられます。3年次には論文の内容に直接関係ないと思われる科目にも興味をもって視野を広げ、これまで学んできたことを有機的に結びつけられる客観的な視点を獲得することを目指しましょう。もちろん特講もそうですが、様々な視点から日本文学にかかわる内容があった科目がならば選択科目には、一期一会となるような科目が待っています。		4年次には、大学で学んできたことをすべて生かして書かなければならない、卒業論文に取り組みます。論文はとくにゼミナールでの研鑽が問われるので、1年次から履修できる必修科目以外にゼミナールの単位が4単位以上取得できていないと、4年次には進級できません。一方で卒業必要単位数を計画的に満たしていれば、4年次には好きな科目、学んでおきたい科目が比較的自由に履修できます。日文科以外の専門科目も自由科目で履修できるので、大学でしか学べないことを最後まで大事にして時間割を計画しましょう。		日文科の専門科目では、上に挙げた必修科目と選択必修科目、選択科目以外に自由科目を8単位以上履修する必要がありますが、取得単位で注意しなくてはならないのは総単位数です。必修科目や選択必修科目等の必要単位数を満たしていても、総単位数で卒業必要単位数を満たしていないことがあります。「～単位以上」となっている科目に気をつけて、とくに4年次には必要単位数だけでなく、総単位数に注意して履修してください。		

※学部専門科目は、1, 2年次の履修上限が42単位です。ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次の内に履修できるとは限りません。上限に達する場合には、3年次に履修して下さい。